

北國がソニーを破りオムロンとともに10勝目

～第34回 日本ハンドボールリーグ・第18週～

第34回日本ハンドボールリーグ第18週は、男子がアジア選手権（2月6日～、レバノン）のブレイク期間に入ったことにより、女子のみ3試合が行われた。女子はすでにプレーオフ進出3チームが決定しており、残る焦点はレギュラーシーズンの順位。プレーオフ決勝で準決勝（レギュラーシーズン2位と3位が対戦）の勝者を待ち受けるアドバンテージを得られるレギュラーシーズン1位をめぐる争いが熾烈になってきた。

その順位をめぐる3強同士の直接対決となったのが、2月7日、奈良での北國銀行-ソニーセミコンダクタ九州戦。試合は互角の滑り出しから、前半10分を過ぎて動き出した。12分、7-6と北國1点リードの場面から、高橋の7mスローで同点に追いついたソニーは、高栖のゴールなどで一気に加速。20分、12-7とソニーが5点をリード。その後、北國が25分過ぎからの3連打で13-15と2点差にしたのに対し、ソニーも高橋、田中の連打で応戦し、17-13と4点リードで前半を折り返した。

巻き返しを期す北國は、後半立ち上がりに中村、野路（良）の連続得点で好発進。ソニーが高橋で1点を返したあとも、上町の7mスローなどで3連取、5分18-18と試合を振り出しに戻した。激しいつばぜり合いを経て、一気に抜け出したのは北國。GK田代の好守を得意の速攻につなげ、10分過ぎから17分過ぎにかけての7連取で、17分26-20と6点をリード。郭を厚く守られ、攻撃が単調になって失速したソニーをとらえた北國が10勝目をマークした。

その試合に先立つ6日、熊本では3強の一角・オムロンがHC名古屋と対戦。開始34秒、東濱の強烈なロングシュートで先制したオムロンは、攻守ともに地力の差を見せつけ、ゴールを量産。6分、6-0とオムロンがリードしたところで名古屋ベンチがタイムアウトを請求したものの、流れはまったく変わらず、オムロンは21分過ぎまでにじつに16連取、21-3と前半で決定的な差が開いた。後半、メンバーを入れ替えたオムロンに対し、名古屋は高橋（瑛）、鈴木らで得点ペースを上げるのが精一杯。充実感あふれるオムロンが、33-12とワンサイドゲームで、今シーズン10勝目をあげ、北國と勝点20でトップを並走している。

同6日、広島での広島メイプルレッズ-三重バイオレットアイリスは、レギュラーシーズン4位をめぐる対戦。前半15分、4-3と1点リードしていた広島が、エース植垣のゴールを皮切りに4連取し、17分、8-3と抜け出したかと思えば、三重もGK毛利の堅守でリズムをつかんで反撃。27分、9-9の同点に追いつくなど譲らず、勝負は後半へ。試合は前半以上の粘り合いとなりロースコアで推移した。後半10分、13-12と1点リードの場面から、広島は五月女のゴールから4連取し、21分、17-12とこの試合、最大となる5点リード。優位に立って正念場を迎えた広島が、三重の追撃を振り切り、4位に近づく4勝目を飾った。

次の第19週も女子のみ3試合の開催。2月14日、愛知、愛媛での開催となり、いずれも上位3チームと下位3チームの対戦。プレーオフをにらむ上位3チームは、着実に白星を重ね、弾みをつけたいゲームとなる。



④北國ゴールを死守するGK田代⑤三重の追撃を振り切った広島・村山

第19週の日程

2月14日(日)	愛知	ブラザー工業体育館(地下鉄名城線堀田駅徒歩10分)	13:00~	(女)	H C 名 古 屋 × ソニーセミコンダクタ九州
	愛媛	松山市総合コミュニティセンター体育館(JR予讃線松山駅徒歩10分)	12:00~	(女)	三重バイオレットアイリス × 北 國 銀 行
13:45~			(女)	オ ム ロ ン × 広 島 メイプルレッズ	

<p>◆ 2月6日(土) 女子 広島・東区スポーツセンター</p> <p>広島メイプルレッズ 19 (11-9) 16 三重バイオレットアイリス 4勝0分8敗</p> <p><0/2> K 堂 面 浅 井 K <0/1> 1/ 1 土 屋 横 川 2/ 2 2/ 2 村 山 桂 2/ 3 0/ 0 河 田 宮 下 3/ 5 1/ 3 大 前 谷 口 0/ 0 4/5 5/20 植 垣 北 村 0/ 0 2/ 7 菅 野 橋 本 4/ 8 0/ 1 伊 藤 毛 利 K <1/4> 3/ 5 五 月 女 星 野 1/ 6 <0/1> K 横 伊 藤 1/10 3/3 0/ 0 安 齋 伊 崎 0/ 0 0/ 0 石 山 0/ 0 高 山 1/ 4 新 城</p>	<p>◆ 2月6日(土) 女子 熊本・山鹿市総合体育館</p> <p>オムロン 33 (21-3) 12 HC名古屋 10勝0分2敗 0勝0分12敗</p> <p><1/1> K 勝 田 近 藤 K 5/ 7 城 内 池 田 0/ 1 5/ 8 高 田 高 橋 瑛 4/10 3/ 3 巻 鈴 木 3/10 3/ 6 市 村 菅 谷 1/ 8 1/2 2/ 4 藤 井 阪 本 0/ 0 4/ 6 石 立 外 本 0/ 0 0/1 0/ 4 久 野 上 野 2/ 4 0/ 0 洪 廷 昊 高 橋 玲 0/ 1 2/ 4 吉 田 薫 家 城 K <3/3> 0/2 4/ 6 永 田 柳 山 美 1/ 3 <0/1> K 山 中 柳 田 0/ 0 4/ 4 東 濱 比 嘉 0/ 3 1/ 3 松 本 戸 塚 0/ 0</p>	<p>◆ 2月7日(日) 女子 奈良・生駒市市民体育館</p> <p>北國銀行 31 (13-17) 24 ソニーセミコンダクタ九州 10勝0分2敗 8勝0分4敗</p> <p><0/2> K 寺 田 中 島 K <0/3> 0/ 0 鰻 場 郭 惠 静 4/17 4/4 7/12 上 町 長 野 2/ 9 2/ 6 宮 前 高 橋 3/ 7 2/2 0/ 1 佐 久 川 田 中 3/ 7 1/ 2 川 井 山 田 0/ 0 4/ 6 中 村 儀 間 0/ 2 1/1 7/ 9 横 嶋 高 栖 崎 4/ 5 3/ 6 野 路 代 川 崎 0/ 0 <0/2> K 田 代 黒 木 K 3/ 5 1/ 7 仲 宗 根 飛 田 K <0/1> 0/ 0 井 上 飯 田 1/ 1 1/ 3 八 十 島 南 K 1/ 4 若 松 東 0/ 0 1/1</p>
<p>4/5 15/43 2(FPP)8 13/34 3/3 審判(浜田・小笠原) 観客 443人</p>	<p>0/3 33/55 2(FPP)5 11/40 1/2 審判(亀井・堀川) 観客 790人</p>	<p>4/4 27/56 3(FPP)7 20/53 4/4 審判(寺内・細川) 観客 851人</p>



子供たちとの交流で地域貢献を

最下位が決定した北陸電力ブルーサンダーですが、来シーズンに向け、常に1勝でも多く勝つことと「上位進出」を目指し、日々の練習に精を出しています。中でも若手選手の活躍に期待したいところ。運動能力はあまり高くはないものの持ち前の「ガッツ」でディフェンスの核となりつつある石塚選手は、その目玉とも言えるでしょう。

また、北陸地域に根ざした企業を目指す北陸電力ブルーサンダーは地元でのハンドボール教室を行っています。ちびっこたちとのコミュニケーションをとることにより、ハンドボールの楽しさや面白さを感じ、とても良い刺激をもらって

北 陸 電 力

る北電セブンです。このちびっこたちにゲームでも「喜びと感動」を分かち合えるように頑張っていきたいです。

今後も地域の子供たちとの交流を通じて地域貢献活動を行い、地元の小学生から高校生の目標になれるように日頃から気持の伝わるプレーをしていきます。皆様これからも変わらぬご声援よろしくお願ひします。



ホーム最終戦、吹奏楽とのジョイントに2250人

1月31日、三重バイオレットアイリスは地元鈴鹿のホーム最終戦を「ハンドボールと吹奏楽の競演」というイベントの形で催した。第1部が対HC名古屋戦、第2部が三重県立白子高校吹奏楽部の演奏会という2部構成。会場の鈴鹿市立体育館をほぼ埋める2250人の観客を集めた。

日本トップリーグ連携機構のトップアスリート活動基盤整備事業としてわがチームを訪れたプロジェクトチームから、「地元最終戦で体育館を満席にしてみないか」と提案された。

満席にするということ自体がイベントとしてなかなか刺激的。うまくいけば、これを機にチームの裾野を広げることができる。が、これまで同館で開くハンドボール日本リーグの試合の観客は多くて500人程度。ふだんの5倍以上、鈴鹿市の人口の1%強を集める話である。どうしたら可能か。思案

した結果が、7年連続県大会優勝という県内では抜群の実績と人気を誇る白子高校吹奏楽部とのジョイントだった。

選手所属企業・協賛企業をはじめ、昨年発足したサポーターズクラブの会員、市、体協、学校などを巻き込んで実行委員会を組織した。ポスター、チラシを配布し、チケットを売りさばいてもらい、結果として予想を超える観客に来てもらえた。観衆の大半がハンドボールを初めて見たという人。その醍醐味を存分に感じてくれたようだ。

(三重バイオレットアイリス広報担当・竹内宏行)



男女個人ランキング 第18週終了

《男子》

《女子》

得点王

1	末松 誠	(大同特殊鋼)	102点	(13試合)	1	上町 史織	(北國銀行)	108点	(12試合)
2	門山 哲也	(トヨタ車体)	83点	(12試合)	2	植垣 暁恵	(メイプルレッズ)	82点	(12試合)
3	今村 彰伸	(豊田合成)	76点	(13試合)	3	郭 惠静	(ソニー)	80点	(12試合)
4	村上 秀行	(トヨタ紡織九州)	75点	(13試合)	4	横嶋かおる	(北國銀行)	72点	(12試合)
5	東長濱秀作	(湧永製薬)	72点	(12試合)	5	藤井 紫緒	(オムロン)	71点	(10試合)
6	豊田 賢治	(大崎電気)	69点	(13試合)	6	伊藤亜衣美	(バイオレットアイリス)	70点	(12試合)
7	銘苺 淳	(トヨタ車体)	68点	(13試合)	7	高橋 恵	(ソニー)	66点	(12試合)
8	武田 享	(大同特殊鋼)	65点	(12試合)	8	高栖 由香	(ソニー)	59点	(12試合)
8	村山 裕次	(琉球コラソン)	65点	(13試合)	9	高田 裕梨	(オムロン)	51点	(12試合)
10	小澤 広太	(大崎電気)	63点	(13試合)	10	桂 裕美子	(バイオレットアイリス)	46点	(12試合)
10	中畠 嘉之	(トヨタ紡織九州)	63点	(14試合)	10	若松 里佳	(北國銀行)	46点	(12試合)
12	志慶真龍我	(琉球コラソン)	60点	(13試合)	12	洪 廷昊	(オムロン)	45点	(12試合)
13	呉 相民	(トヨタ紡織九州)	59点	(14試合)	13	菅谷 美奈	(H C 名古屋)	41点	(12試合)
13	藤山 岳士	(トヨタ紡織九州)	59点	(14試合)	14	橋本 寛子	(バイオレットアイリス)	40点	(12試合)
15	神田 友和	(北陸電力)	58点	(14試合)	15	城内 真紀	(オムロン)	39点	(11試合)

フィールド得点

1	末松 誠	(大同特殊鋼)	92点	(13試合)	1	郭 惠静	(ソニー)	80点	(12試合)
2	門山 哲也	(トヨタ車体)	83点	(12試合)	2	上町 史織	(北國銀行)	77点	(12試合)
3	今村 彰伸	(豊田合成)	76点	(13試合)	3	横嶋かおる	(北國銀行)	72点	(12試合)
4	村上 秀行	(トヨタ紡織九州)	74点	(13試合)	4	植垣 暁恵	(メイプルレッズ)	62点	(12試合)
5	武田 享	(大同特殊鋼)	65点	(12試合)	5	高栖 由香	(ソニー)	59点	(12試合)
6	小澤 広太	(大崎電気)	63点	(13試合)	6	伊藤亜衣美	(バイオレットアイリス)	53点	(12試合)
6	中畠 嘉之	(トヨタ紡織九州)	63点	(14試合)	7	高田 裕梨	(オムロン)	51点	(12試合)
8	志慶真龍我	(琉球コラソン)	59点	(13試合)	7	高橋 恵	(ソニー)	51点	(12試合)
8	呉 相民	(トヨタ紡織九州)	59点	(14試合)	9	藤井 紫緒	(オムロン)	48点	(10試合)
10	神田 友和	(北陸電力)	58点	(14試合)	10	桂 裕美子	(バイオレットアイリス)	46点	(12試合)
					10	若松 里佳	(北國銀行)	46点	(12試合)

シュート率 (フィールド得点ベスト10を対象)

1	末松 誠	(大同特殊鋼)	92点/130射	0.708	1	高栖 由香	(ソニー)	59点/ 69射	0.855
2	村上 秀行	(トヨタ紡織九州)	74点/115射	0.643	2	横嶋かおる	(北國銀行)	72点/ 91射	0.791
3	小澤 広太	(大崎電気)	63点/ 98射	0.643	3	上町 史織	(北國銀行)	77点/ 130射	0.592
4	志慶真龍我	(琉球コラソン)	59点/100射	0.590	4	桂 裕美子	(バイオレットアイリス)	46点/ 78射	0.590
5	門山 哲也	(トヨタ車体)	83点/141射	0.589	5	高田 裕梨	(オムロン)	51点/ 87射	0.586

7mスロー得点

1	藤山 岳士	(トヨタ紡織九州)	27点	(14試合)	1	上町 史織	(北國銀行)	31点	(12試合)
2	銘苺 淳	(トヨタ車体)	26点	(13試合)	2	藤井 紫緒	(オムロン)	23点	(10試合)
3	村山 裕次	(琉球コラソン)	21点	(13試合)	3	植垣 暁恵	(メイプルレッズ)	20点	(12試合)
4	東長濱秀作	(湧永製薬)	19点	(12試合)	4	伊藤亜衣美	(バイオレットアイリス)	17点	(12試合)
5	豊田 賢治	(大崎電気)	14点	(13試合)	5	高橋 恵	(ソニー)	15点	(12試合)
					5	菅谷 美奈	(H C 名古屋)	15点	(12試合)

7mスロー阻止率 (7mスローを受けた数が、チームの試合数以上のGKを対象)

1	坪根 敏宏	(トヨタ車体)	9本/ 17射	0.529	1	勝田 祥子	(オムロン)	7本/ 14射	0.500
2	田平龍太郎	(トヨタ車体)	6本/ 14射	0.429	2	家城 千香	(H C 名古屋)	12本/ 25射	0.480
3	松野 雅崇	(トヨタ紡織九州)	10本/ 26射	0.385	3	堂面 妙子	(メイプルレッズ)	7本/ 21射	0.333
4	東 佑三	(大崎電気)	6本/ 16射	0.375	4	近藤 澄江	(H C 名古屋)	5本/ 19射	0.263
5	藤田 東吾	(豊田合成)	5本/ 16射	0.313	5	寺田三友紀	(北國銀行)	8本/ 31射	0.258

選手・役員登録情報

- ◇トヨタ車体 No.10 木切倉真一 1987.10.23 174cm 66kg 右 三松小→三松中→小林工業高→筑波大
※2010.02.13 より出場可能
- ◇湧永製薬 No.11 樋口 睦 1987.05.05 180cm 75kg 右 汐路中→愛知高→筑波大
※2010.02.20 より出場可能

チャレンジディビジョン・西地区

2月7日・奈良県生駒市市民体育館

Honda 28 (13-12, 15-9) 21 高松大学

第 34 回 日本ハンドボールリーグ 成績表

第18週終了 2月7日

順位	男子	大同特殊鋼		トヨタ車体		トヨタ紡織九州		湧永製菓		大崎電気		豊田合成		琉球コラソン		北陸電力		試合数	勝数	引分数	敗数	勝点	総得点	総失点	差
		1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2								
1	大同特殊鋼			30 27 ○ △	23 27 ○ △	35 28 ○ ●	27 31 ● ○	32 29 ○ ○	26 25 ○ ○	24 ○	25 30 ● ○	30 ○	33 30 ○ ○	35 37 ○ ○	28 30 ○ ○	36 40 ○ ○	23 24 ○ ○	13	11	1	1	23	441	311	130
2	トヨタ車体	23 27 ● △	30 27 ○ ○			27 31 ● ○	28 30 ○ ○	32 33 ○ ○	30 26 ● ○	36 22 ○ ○	24 ○	30 ○	33 30 ○ ○	28 30 ○ ○	36 40 ○ ○	23 24 ○ ○	13	9	1	3	19	379	343	36	
3	トヨタ紡織九州	29 29 ● ○	28 30 ○ ●					23 31 △ ●	23 34 ○ ○	30 26 △ ●	40 37 ○ ○	36 29 ○ ○	30 32 ○ ○	30 32 ○ ○	30 32 ○ ○	23 23 ○ ○	14	8	2	4	18	430	382	48	
4	湧永製菓	26 25 ● ●	30 26 ● ●	23 34 △ ○	23 31 ○ ○					28 27 ○ ○	39 31 ○ ○	37 ○	35 33 ○ ○	35 33 ○ ○	17 16 ○ ○	13	8	1	4	17	394	328	66		
5	大崎電気	19 ●	36 22 ○ ●	30 28 △ ○	21 25 ● ●					28 27 ○ ○	43 30 ○ ○	34 34 ○ ○	28 24 ○ ○	28 24 ○ ○	24 18 ○ ○	13	8	1	4	17	374	323	51		
6	豊田合成	24 19 ● ●	24 ●	21 27 ● ●	23 20 ● ●	18 19 ● ●							22 33 △ ○	22 24 △ ○	22 17 ○ ○	13	2	2	9	6	296	428	-132		
7	琉球コラソン	24 19 ● ●	23 27 ● ●	28 24 ● ●	26 ●	27 27 ● ●	22 29 △ ●							33 27 ○ ○	29 18 ○ ○	13	2	1	10	5	336	407	-71		
8	北陸電力	23 24 ● ●	17 23 ● ●	23 23 ● ●	17 16 ● ●	24 18 ● ●	22 17 △ ●	29 18 ● ●									14	0	1	13	1	294	422	-128	
		36 40 ○ ○	28 30 ○ ○	30 32 ○ ○	35 33 ○ ○	28 24 ○ ○	22 24 ○ ○	33 27 ○ ○																	

順位	女子	北國銀行		オムロン		ソニーセミコンダクタ九州		広島メイプルレッズ		三重バイオレットアイリス		HC名古屋		試合数	勝数	引分数	敗数	勝点	総得点	総失点	差
		1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2								
1	北國銀行			30 19 ○ ●	25 21 ○ ○	33 23 31 ○ ● ○	27 31 24 ○ ○ ○	34 31 26 ○ ○ ○	29 30 ○ ○	37 31 ○ ○	12	10	0	2	20	354	271	83			
2	オムロン	25 21 ● ○	30 19 ○ ○			27 36 24 ● ○ ○	28 21 22 ○ ○ ○	33 36 ○ ○	23 28 ○ ○	40 37 33 ○ ○ ○	12	10	0	2	20	363	224	139			
3	ソニーセミコンダクタ九州	27 31 24 ● ○ ●	28 21 22 ○ ● ●					45 39 ○ ○	32 35 ○ ○	42 42 ○ ○	12	8	0	4	16	388	307	81			
4	広島メイプルレッズ	28 22 23 ● ● ●	17 15 ● ●	26 24 ● ●	26 24 ● ●					28 15 19 ○ ● ○	12	4	0	8	8	286	341	-55			
5	三重バイオレットアイリス	21 18 ● ●	16 19 ● ●	20 28 ● ●	27 21 16 ● ○ ●					30 31 27 ○ ○ ○	12	4	0	8	8	274	283	-9			
6	HC名古屋	16 15 ● ●	11 14 12 ● ● ●	15 20 ● ●	20 13 ● ●	15 16 13 ● ● ●						12	0	0	12	0	180	419	-239		
		37 31 ○ ○	40 37 33 ○ ○ ○	42 42 ○ ○ ○	36 33 ○ ○ ○	30 31 27 ○ ○ ○															

※この星取り表は、シーズン途中は試合数に関係なく、仮の順位で並び替えてあります。

同勝点の場合は、1. 対戦間勝点 2. 対戦間得失点差 3. 総得失点差 4. 総得点 の多い順で順位付けしています。